

2015年10月5日 発行

公益社団法人  
福井県理学療法士会  
*News Letter*  
No.168

発行人：福井県理学療法士会  
〒910 福井市西方 1-2-11  
-0855 嶋田病院  
会長：堀 秀昭  
ニュース編集部：大谷 尚史  
会員数：759名  
施設数：130施設  
(平成26年6月25日現在)

## 「趣味から思う事」

福井リハビリテーション病院 山本 敏幸

私の趣味の一つに釣りがあります。主に海でのルアーフィッシングとキスの投げ釣りをしていて、当然ながら魚を釣り・食べる事が目標です。

釣りというと、針を垂らしてのんびり魚を待つイメージがあるかもしれませんが。しかし闇雲に餌を投げ、ルアーを動かせば良い訳ではなく、まず魚の習性を本やネットから調べ、狙う魚に適した竿やリール・糸の太さやルアーの種類等道具を選びます。釣り場に着いてからは地形や波を観察して海中のイメージをし、どこに魚がいるかを予測します。ルアーを投げてからはルアーの動かし方を工夫し、釣れなければルアーの動かし方を変える・ルアーの重さや色を変える・投げる方向や場所を変える等々、やる事はいっぱいです。どんなにいい道具を揃えようが、ここまでの過程をちゃんとしなければ一匹も釣れない事もありますし、逆に考えがぴったりはまれば2000円程度の入門セットと100円の安物ルアーでヒラメが釣れる事もあります。上達の為に大事なのは過程をしっかり考える事で、何も考えずに道具に頼ってはいつまでも上達しません。

釣りの為に行っている事は、我々の日々の業務と同じではないでしょうか。能力の向上を図り自宅での生活を送ってもらうという目標達成の為には、病気や障害の事、家族背景や社会背景等多くの情報をカルテや画像所見、文献等からしっかり調べ、評価・プログラムを実施し、適時効果判定を行います。患者の状態をしっかり見極め、その時の状態に合った理学療法を選択していかなければ目標は達成できません。どんなに優れた手技を獲得していたとしても、それを活かす為の過程が間違っているのは宝の持ち腐れです。

ルーティーンな理学療法を実施していないだろうか・効果判定を適切に行っているだろうか・現状に即した目標設定を行っているだろうか等々、学生時代に散々フィードバックを受けた「統合と解釈」の重要性を、去年は一度も行けなかったアオリイカ釣りの道具を手入れしながら、ふと思いました。

2015年10月5日



# 施設紹介



社会福祉法人 一乗谷友愛会  
あさくら苑デイサービスセンター

戸田 真敬

当事業所は、特別養護老人ホームあさくら苑併設一般型（予防含む）のデイサービスセンターです。国道8号線沿いに立地し、近隣には福井県産業会館、福井県生活学習館、福井県立図書館、福井市美術館、スーパー、医療施設等の公共施設があります。定員は25名で、「入居者・利用者の人権を尊重し、自由な生活の実現に努める」という法人の理念のもとに、日々の業務を遂行しております。



リハビリ職は理学療法士1名、作業療法士1名です。トレーニングマシン等リハビリ機器は現在のところありませんが、機能訓練では個別で対応し、ご利用者様一人一人が笑顔で生き活きとした在宅生活を継続できるよう、日常生活動作主体のアプローチを行っております。施設内では研修会や勉強会も行っており、看護師や介護職とも連携を図り、ご利用者様にとってよりよいサービスを提供できるように日々努めております。



2015年10月5日

# Professional ~Style of works~

## Profile

- ・氏名：青木 拓也
- ・所属先：医療法人 健康会 嶋田病院
- ・修得資格：認定理学療法士（運動器）
- ・経験年数：8年目
- ・出身校：福井医療技術専門学校
- ・その他の資格：特にないです



## Questions

### Q1 この資格を取得しようと思った理由を教えてください。

ある日突然、「この資格を取ればかっこいいかもしれない」と思ったのがきっかけです。あとは、今まで運動器を中心に勉強してきたので、自分を試す意味でもいい機会かもしれないと思い試験を受ける決断をしました。

### Q2 この資格に関わる魅力を教えてください。

前回や前々回の池田先生や久保先生もコメントしていましたが、この資格と取ったことで学術大会の査読依頼や講師依頼など自分の仕事の幅が広がり、新たな仕事仲間が増え、様々な価値観に触れる事が出来るようになったことは魅力の一つだと思います。

### Q3 この資格を取得して良かったと思うことを教えてください。

Q2でも少しコメントしましたが、仕事の幅が広がり、新たな仲間が増えたことで、新たな視点を持てるようになったことなどは、自分の成長を実感する機会となり良かったと思いました。また、いろいろな人と話す機会が増えたことで、資格を取ったことが、ゴールではなくスタートであったという事に気付かされ、さらに次を目指して努力していく意欲がわきました。

### Q4 この資格を取得するために大変だった事などを教えてください。

池田先生や久保先生もコメントしていましたが、10症例のレポートは自分にとっても、ものすごく大変でした。普段の臨床では、いろいろな評価を記録として残しているつもりでしたが、いざレポートにしようとするとうりていないものが多く、自分の未熟さを痛感しながら作成したことが印象に残っています。

### Q5 今後のセラピスト活動に対する計画や目標、希望などを教えてください。

現在、具体的な目標や計画といったものはありません。しかし、どこに向ければよいかわからない向上心はあります。認定理学療法士を取ると決めたときのようにある日突然、思い立って行動すると思います。

2015年10月5日



女性ワークライフバランス委員会主催による、働く理学療法士のための料理教室が9月13日（日）に浅田クッキングスクールにて行われました。Lady Go!!の発行など活発に活動されている同委員会の委員長でもある豊田 泰美先生にインタビューをしました。

#### Q1 女性ワークライフバランス委員会が開始された経緯、そして今後の目標はありますか？

経緯としましては、理学療法士は、生涯に渡る専門職としての資質維持のために、職業継続や学習へのサポートが必要となります。特に女性は男性に比べて結婚、出産、育児、介護等といったことによってそれらが困難となることが少なくありません。現在、福井県士会員も44%が女性であり、女性会員の多くが仕事をずっと続けたいという希望を持っているとすれば、何らかの支援を考える必要性があると考え、『福井県女性会員支援委員会』を発足しました。

今後の目標としましては、ワークライフバランス委員会を女性に限ることなく福井県士会全員のワークライフバランス委員会としての役目を持ち、仕事と私生活の相乗効果を高める考え方や取り組みについてなどの提案をしていきたいと考えています。



#### Q2 「働く理学療法士のための料理教室」ではどの年代、性別の方の参加が多かったですか？

30歳代が中心で男性も4人の方に参加して頂き和気藹々と4品の時短料理を作ることができました。

#### Q3 豊田先生がご結婚やご出産を経験された当時困った事や大変だったことなどはありますか？

20年位前だと産前産後休暇はとれました。そのころは、当院の方で無理をして産前をとらずに仕事をしていて仕事に陣痛が来た方もいましたね。凄い時代でした。

育児休暇については取っている方が少なかったと思います。

大変だったことは未満児を保育園に通所していたので一番に金銭面が大変でした。

また子が病気にすぐにかかるため、両親の応援なしでは勤務することもできませんでした。

また保育園、学校の行事参加のために仕事を休むことも行いにくかったように思います。

#### Q4 豊田先生が育児をされていた当時と現代の職場環境はどのように変化していますか？

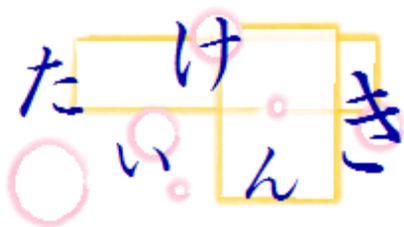
職場環境については、3人子供がいるために少しずつ良くなっていくことを実感しています。託児所、保育園の充実、育児手当などの金銭面の援助も少しずつですが可能になり改善していると思います。

育児、介休業法が改正され、産休、育休、時短などを取りやすくなっていると感じている方も多くなってきているのではないかと思います。

反面、介護の面ではまだまだではないかと思います。介護に関しては日本全体での今後の課題でもあると考えます。



2015年10月5日



## 地域リハビリテーション推進研修会に参加して

有限会社ほっとリハビリシステムズ 川端 有知

## 「24時間 365日でケアを考える」

今回、この勉強会では介護の当たり前、基本を学び、できている、意識していると思っていてできていない部分がありました。今回の勉強会の講師の先生は高知県にある、生き生きサポートセンターうえるば高知の下元佳子先生です。今回の勉強会のテーマは、「リハビリテーション介護の基礎を学ぶ ～他職種協業で出すべき結果とは？～」でした。内容としては、座学と実技の勉強会でしたが、目の前にいるご利用者様にどんな目的で介護を行うのか、そして、24時間 365日でケアを考える重要性を教えてくださいました。今までのリハ職はROMや筋力増強訓練を行い、直接的に患者様、ご利用者様に関わることを中心に行ってききましたが、これから自分達に求められているものは、ご利用者様の1日をプロデュースし、その方をお支えしているご家族や他職種と連携をとり、その方をお支えしていくことです。そのためには、自分達が何を求められており、何をしなければいけないのか、何を伝えなければならないのかを意識する必要があります。そして、自分達リハ専門職だけができている事に満足せず、ご家族やその方をお支えする他職種ができて初めてその方をお支えできる礎となると教えて頂きました。

また、勉強会の中ではリフターやスライディングシート、ハーティグローブなどの福祉用具についての説明もありました。ご家族でも簡単に使用でき、かつ、ご利用者様の身体への負担が小さいもの。それを私達リハ専門職がアセスメントを行い、目的に合わせた福祉用具の選定や介護方法の提示をご利用者様やご家族、他職種にも行っていく必要があると教えて頂きました。そして、私達リハ専門職はできるだけスマートに福祉用具を使うことで目に見える即時効果を出し、信頼関係の構築に繋がるとも話されていました。これからは、環境因子にもアプローチができるリハ専門職も求められていると改めて実感しました。

この勉強会で感じたことは、他職種との連携の重要性と、日々のケアの質の重要性に改めて気づくことができました。持ち上げない介護を今後も学び、理学療法士だけでなく、日々ご利用者様のケアに当たっている介護職の方々へも県士会の活動として広げていきたいと思えます。



2015年10月5日

## ふくい健康長寿祭 2015 を終えて

嶋田病院 理学療法士 道岸 沙和

今回は、鯖江市嚮陽会館にて開催された「ふくい健康長寿祭」の出展ブースの一つとして携わらせて頂きました。テーマは「家族全員で身体と脳を健康に」と掲げられており、鯖江市民を中心に多くの催し物が開かれていました。嚮陽会館のみでなく、鯖江市各地で多種目のスポーツが開催されているなど、子供からお年寄りまでが楽しめる内容となっていました。

その中で福井県理学療法士会は、健康チェックコーナーとして、ロコモティブシンドロームチェック、身体のお悩み相談やそれに対する運動アドバイスを行いました。ロコモチェックでは、立ち上がりテストと2ステップテストの2種類を実施し、年齢毎に出された平均値と比較することで、身体機能状態の確認をしてもらいました。

このコーナーを目的に来場して下さった方も多くおられ、ロコモチェックだけでなく体の悩み相談が目的で来られる方もおり、理学療法士への期待が感じられました。コーナーを体験された方々からは「熱心に指導してくれてありがとう」、「運動しているつもりだったが自分の体の痛みに合わせて運動を知れてよかった」などといった声を頂き、日々の診療が活かされ多くの方の笑顔をみることができ私自身もとても嬉しかったです。

今回のテーマである「ロコモ」について、私たち理学療法士会は健康フェアやテレビ出演などを通じて宣伝してきました。来場者に名前を聞いた事があるか尋ねると、半分以上の方が聞いたことがあるとお答えになり知名度の向上に驚きました。また、「ロコモティブシンドロームになりたくない」と日々運動に励む方もおられるなど非常に健康意識の高い方が増えている印象を受けました。

イベントを終え感じたこととしては、健康意識が高く自分で運動をされている方が多数いる中で、痛みがある場所や特に筋力低下がある場所に対して適切な運動指導、アドバイスを行えたら、もっと日々の運動が充実したものになるなと思いました。そのためには、今回のような催し物に積極的に理学療法士が関わりながら地域の方々との交流場面を少しずつ増やしていくことが大切だと感じます。その際に、多くの知識、技法をアドバイスできるよう日々の業務に精進したいと思います。



2015年10月5日

## 平成27年度第1回一般研修会に参加して

福井大学医学部附属病院

高山 マミ

8月2日(日)に福井県済世生病院にて開催された、平成27年度第1回一般研修会に参加しました。今回、「高齢者に対する運動介入の考え方」をテーマに筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授 山田実先生にご講演いただきました。講演中に山田先生から「3.5秒に1人」は何を示すのか提示された時、日本で65歳以上の高齢者が転倒している数値だということに衝撃を受けました。転倒には運動機能の低下だけでなく、「不注意による躓き」「転倒に対する恐怖」「環境」等の様々な要因があり、普段の臨床で運動機能の向上に目がいきがちですが、それに加え介入すべき点は幅広いことを再認識することが出来ました。

また、フレイルやサルコペニアに直面している高齢者や健常高齢者の転倒予防対策には、筋力なのかDual taskなのか、転倒予防のエビデンスは当てはまるのかと、視点を広く持って個々の患者に適した運動療法の選択をしていく必要性を感じました。狭い視野で見ていた転倒や運動療法の介入に対し、新たに発見したことや認識できたことが多く、有意義な講習会となりました。今回得たことを活かしていけるよう、日々の臨床で意識していきたいと思いました。

中村病院リハビリテーション部

小林 由佳

平成27年8月2日に福井県済生会病院にて一般研修会が開催されました。

私が理学療法士になり4か月が経ちました。何人もの患者様が退院していきましたが、その多くが高齢者です。今回の研修の「高齢者に対する運動介入の考え方」というテーマは、日本の高齢社会にとっては切り離せない密な内容でした。様々な研究データがあり、どれも興味深いものばかりでした。その中でも退院後6か月以内に約4割の高齢者が転倒するという研究データは、退院後の患者様の生活を考えるきっかけになりました。退院後は虚弱になりやすく、転倒の危険性が増すとされており、入院時より「筋トレを行い下肢筋力を付けることで転倒予防になる」。一様に考えがちですが、まず考えなければならないのは、「誰に対する介入か」であり、これが最も大切なことであると感じました。高齢者と虚弱な高齢者(フレイル群)では介入の仕方が異なります。健常者には筋トレだけより二重課題能力にも注視すべきであり、筋トレだけでは筋力増強に繋がるものの転倒予防にはなりません。フレイル群にはレジスタンストレーニングの様な筋トレが必要であり、転倒予防に効果的であるとされ、介入すべき症例により方法が異なることが明らかになり驚きました。

日常生活では複数課題で構成されており、生活するためには困難と向き合っていかなければなりません。その環境下でいかに早くリスクを察知する能力や、回避する運動機能を身に付ける為にも、個人にあったプログラムを立てる必要性を強く実感しました。



2015年10月5日

## 奥越ブロックセミナーに参加して

福井勝山総合病院 多田 将也

9月5日、福井勝山総合病院にて千里リハビリテーション病院の吉尾雅春先生を講師としてお招きし、奥越ブロックセミナーが開催されました。大変貴重な機会であり、今回私も参加させていただきました。

講義は「脳卒中患者の歩行再建」をテーマとし、脳卒中患者の歩行障害の要因をさまざまな視点から捉え、特に脳画像を参考にして考えていこうというもので、症例なども交えながら講義していただきました。講義で特に強くおっしゃられていたのは、【原因があつて結果(現象)がある】ということでした。



現象ばかりをみるのではなく、脳画像からどの神経回路が障害されているのかを読み取り、セラピストが上肢・下肢の運動機能の回復の可能性を引き出していけるかが大切だと感じました。私は、今年の4月に免許を取得したばかりで経験も少ないことから、臨床場面では現象ばかりみていることが多い気がします。脳卒中患者を脳画像からみていくためには、やはり解剖学や運動学といった基礎知識が大切だと改めて実感しました。今回、講義された内容は難しいものではありませんでしたが、とても興味深い内容で有意義な時間でした。

## 吉尾雅春先生による「脳卒中患者の歩行再建」を受講して

松田病院 土井 勇人

今回、講師を務めて頂いた吉尾雅春先生といえば、日本神経理学療法学会 代表運営幹事や、理学療法ジャーナル編集委員であり、私が学生時代に使用していた教科書の著者でもあり、まさにリハビリテーションの最前線で活躍されている先生です。また、理学療法士でありながら約700体の解剖に関わり、厚生労働大臣より死体解剖資格認定をされておられます。ネットで調べると、吉尾先生のセミナーは非常に人気が高く、世の中には“吉尾マニア”なる熱狂的なファンも多数いるようです。今回の講義は脳卒中患者の歩行再建がテーマであるため少し触れた程度でしたが、「真の股関節屈曲角度は93°」という記事を見た時は衝撃を受けました（軟部組織等のことを考えると70°程度とのこと）。

講義の内容としましては、脳の機能解剖から実際の症例を脳画像所見と患者の写真・動画をみながら説明していくもので、病巣から運動機能の回復の可能性を読みとって行く...と。流暢な語り口でユーモアも挟みながらの講義で、集中力を切らすことなく聞き入ってしまいました。先生は「この講義を通して、理学療法士として光を感じて欲しい」とおっしゃっていました。私の勉強不足で理解できない箇所もありましたが、こんな考え方もあるのかと気づくことが出来ました。また、その後に参加した懇親会では「私が解剖学を学び始めたのは43歳からです。自分がどうありたいのか、常に自分に問いかけて頑張っていて欲しい。」というお言葉を頂き、自分もこれからまだまだ学ぶことができると勇気を貰うことができました。



2015年10月5日

## 福井東ブロック研修会に参加して

福井総合病院 山野 敏志

8月23日、大森整形外科リウマチ科にて開催された福井県理学療法士会東ブロック研修会に参加させて頂きました。「人工関節の合併症とリハビリテーション」をテーマに大森整形外科リウマチ科院長、大森弘則先生にご講義頂きました。OAとRAの違い、術式、人工関節術後に生じる合併症、理学療法士の山本伸胤先生による機能的脚長差に対するアプローチ方法と多岐にわたる内容を講師の先生方の臨床経験を踏まえ、分かりやすく教えて頂きました。また、実際に手術施行中の動画も講義の中で見せて下さり、より理解を深められました。私は今回の講義を通して、手術後の合併症はリハビリの進行を妨げるため、合併症の早期発見・早期対処の重要性を認識しました。そのため、コメディカルスタッフも合併症の知識や対処法を理解した上で診療に携わる事が重要と感じました。

今回、福井県東ブロック研修会に参加させて頂き、普段あまり見れない手術中の動画をはじめ、多く知識を学ぶ事ができ大変うれしく思います。1日でも早く1人前の理学療法士として、患者様の立場に立ちより良い医療を提供できるように今後多くの事を学んでいきたいです。大森弘則先生をはじめ、他の先生方に多くの事を学ばせていただき深く感謝致します。

## 第1回福井東ブロック研修会に参加しての感想

公立丹南病院 前田 宗寿

平成27年8月23日に大森整形外科病院で行われた福井東ブロック研修会「人工関節の合併症とリハビリテーション」に参加しました。院長の大森弘則先生が講師を務め、人工関節の手術について映像や画像を踏まえ丁寧に講義してくださいました。年間の人工関節置換術症例数は県内トップとのことで、施設や設備が充実していると感じました。中でもコンピュータナビゲーションによる手術映像には驚きました。コンピュータナビゲーションとは、手術中に関節可動域・関節角度・下肢長の変化などを瞬時に計測するシステムで、コンピュータナビゲーションによる情報を確認しながら手術を行っているとのことでした。術中に計測された関節可動域・関節角度・下肢長の変化などの情報は、リハビリでも活用しているとのことでした。術中に計測された多くの情報はリハビリをする上で、評価やアプローチに活かすことができると感じました。

次に人工関節の合併症について講義してくださいました。合併症について①出血、②骨折・腱損傷、③神経障害、④静脈血栓塞栓症、⑤脱臼、⑥感染、⑦ゆるみ、⑧摩耗と骨溶解、⑨脚長差、⑩可動域制限・拘縮の10項目について過去の症例をとりあげ予防と対策について講義してくださいました。合併症の予防と対策についての講義は、患者のリスク管理において重要であり特に印象に残りました。今回の講義で学んだことを、今後の人工関節置換術患者へのリハビリに活かしていきたいと思っています。

今回、福井東ブロック研修会「人工関節の合併症とリハビリテーション」で学んだことを、さらに自分なりに勉強し知識を深めていきたいと思っています。今後も今回のような有意義な研修会が開催されればぜひ参加したいと思っています。



2015年10月5日

## 福井しあわせ元気国体2018に向けて 平成27年度社会局スポーツ支援部 人材育成研修会案内



初秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

平成30年の福井国体&全国障がい者スポーツ大会に向けて、社会局でも人材育成を目的とした研修会を開催しています。

今年度2回目は、「**スポーツ選手のコンディショニング**」というテーマで、開催いたします。多くの会員の皆様のご参加を宜しくお願い致します。

### 記

テーマ①：スポーツ選手のコンディショニング「**疲労回復・栄養・心理**」

講師：大谷 尚史先生（嶋田病院）

アシスタント：輪内 健二先生，中谷 友美先生，道岸 沙和先生（嶋田病院）

日時、会場：A 平成27年10月14日（水）19:30～21:00

嶋田病院リハビリテーション室

B 平成27年10月23日（金）19:30～21:00

若狭医療福祉専門学校

※テーマ①のA日程B日程ともに同一の内容です。

テーマ②：スポーツ選手のコンディショニング「**筋力・柔軟性**」

講師：山崎 孝先生（福井総合クリニック）

アシスタント：古川 友厚先生，西村 拓郎先生（たなか整形外科・眼科）

竹澤 将道先生（宮崎整形外科医院），任海 龍朗先生（福井総合病院）

日時、会場：A 平成27年11月9日（月）19:30～21:00

嶋田病院リハビリテーション室

B 平成27年11月18日（水）19:30～21:00

若狭医療福祉専門学校

※テーマ①のA日程B日程ともに同一の内容です。

参加費：会員無料

\*受付は30分前より開始します。テーマ①②両日ともに参加していただいた方は、専門・認定理学療法士制度 履修ポイントになりますので、会員証（緑のカード）をご持参下さい。

2015年10月5日

<参加申込み方法・宛先>

メールにて下記宛に研修日の1週間前までにお申し込みください。

スポーツ支援部 菅野 智也 (福井医療短期大学)

メールアドレス：[t.sugano.fchs@krf.biglobe.ne.jp](mailto:t.sugano.fchs@krf.biglobe.ne.jp) TEL：0776-59-2201 FAX：0776-59-2205

①氏名，②施設名，③理学療法士会員番号，④参加希望テーマ，日程 (例：①A，②B)

件名には「人材育成研修」と明記の上，メールにてお申し込みください。

尚，申込み締め切りは各研修会開催1週間前とさせていただきます。

<指定研修申込方法・問い合わせ先>

指定研修会に申込を希望される方は「福井県スポーツ医・科学委員会認定資格」申込書を送りますので，ご連絡ください。

福井県理学療法士会 ふくい国体準備委員会

山崎 孝 福井総合クリニック

東 伸英 福井医療短期大学

TEL：0776-21-1300

TEL：0776-59-2200

e-mail：fgh-pt.mail\_host01@f-reha.jp

e-mail：n-azuma.reha-pt@kir.biglobe.ne.jp

【編集後記】

残暑もなく秋らしい季節となり，何か新しい事に挑戦したいと思うこの頃……

ロードバイクに乗って遠出してみたいなー

(Y.Y)



賛助会員

ミナト医科学株式会社 金沢営業所 石川県金沢市金市町二 18 番 1	酒井医療 (株) 中部支店 名古屋営業所 金沢オフィス 石川県金沢市弥生 2-6-16
ツールケア 福井県福井市加茂河原 2 丁目 13-32-2B	ハシノメディカル 小浜市千種 1-10-18
福井医療株式会社 福井市問屋町 4 丁目 901 番地	有限会社 奥義肢製作所 福井県福井市二の宮 2 丁目
順不同	